

2 0 0 4 年 9 月 1 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

剤形別医薬品市場の調査を実施

2 0 0 4 年国内医療用医薬品市場は5兆3,048億円規模(対2003年比102%)に

総合マーケティングビジネスの㈱富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、このほど、国内医療用医薬品全体及び、主要9疾患領域における剤形別、投与回数別、DDS(ドラッグ・デリバリー・システム)技術・開発動向を調査し、その結果を報告書「2004 医薬品剤形マーケティングマニュアル」にまとめた。

対象9疾患領域：循環器官用剤、糖尿病治療剤、抗がん剤、感染症治療剤、解熱消炎鎮痛剤・整形外科領域、呼吸器官用剤・抗アレルギー剤、精神神経疾患治療剤、消化器官用剤、高脂血症治療剤

1. 調査結果のポイント

現在、医療用医薬品は、患者にとって服薬管理がし易く、医療現場での使い勝手の良さが求められている。医療費削減の流れの中で莫大なコストを要する新薬開発は非常に難しい。新たに開発・上市される製品もジェネリック志向の高まりなどから長期に売上レベルを維持できない状況下で、医薬品の剤形や投与スケジュールは重要な製品の差別化となり、売れ行きや製品寿命に密接に関係している。

(1) シリンジ製剤 2004年見込み 2,911億円(対2003年比 104%)

好調なシリンジの中でも自己注射・皮下注射剤市場は、2004年7月にヒト成長ホルモン剤のシリンジタイプが発売され、新規患者への処方での売上が拡大すると見込まれる。

(2) 口腔内崩壊錠 2004年見込み 698億円(対2003年比 111%)

消化性潰瘍用剤「ガスター」(山之内製薬)が薬剤としての付加価値を高め、売上を維持するために口腔内崩壊錠への置き換えに積極的に取り組んでいる。精神神経疾患治療剤としては睡眠導入剤の「レンドルミン」(日本ベーリンガーインゲルハイム)と片頭痛治療剤「ゾーミグ」(アストラゼネカ)「マクサルト」(エーザイ)の3剤で口腔内崩壊錠を上市しており、市場は小さいながらも拡大の傾向にある。

(3) ドライシロップ・小児用細粒 2004年見込み 754億円(対2003年比 104%)

ドライシロップは一般の粉末・散剤・細粒・顆粒では投薬が難しい小児患者向けの剤形と位置付けられ、抗生物質と喘息治療剤を中心に市場を形成している。シロップよりも携帯性に優れていることや薬剤の経時変化に対する制約が低いことなどから、シロップよりも大きな市場を形成している。

(4) 定量吸入キット 2004年見込み 372億円(対2003年比 107%)

定量吸入キットは、「フルタイド」「セレベント」(共にグラクソ・スミスクライン)を中心とした市場構造となっている。フロンを使用しているエアゾールタイプから、環境に配慮したドライパウダータイプの新製品が上市されている。また喘息治療において吸入ステロイド剤が第一選択薬として浸透しつつあることから、今後も実績の拡大が見込まれる。

(5) 内服液・液剤 2004年見込み 138億円(対2003年比 111%)

内服液・液剤では下剤において液剤が70億円強の市場を形成しており、消化器官用剤領域で主たる剤形としてのポジションを確立している。統合失調症治療剤「リスパダール」(ヤンセンファーマ)「セレネース」(大日本製薬)などで内服液を剤形にラインナップしており、嚥下力の低下している患者や従来型の剤形での服薬に抵抗性を持つ患者向けに着実に実績を伸ばしている。去痰薬では2004年に発売された「クリアナール」(三菱ウェルファーマ)に内服液が追加されており、呼吸器官用剤・抗アレルギー剤での拡大が見込まれる。

2. 調査結果の概要

1) 剤形別市場

2004年国内医療用医薬品市場は5兆3,048億円(対2003年比102%)の見込み

剤形別に見てみると、経口剤は全体で65%を占め、前年比102%の伸び、注射剤は26%を占め横ばい、その他の剤形は前年比101%になると見込まれる。経口剤は外来処方でも最も一般的であり、服薬を管理しやすい剤形である。注射剤市場全体では、アンプル・バイアル製剤は減少しているが、一方でシリンジ製剤は静注・動注、局注、皮下注各投与経路ともに売上を伸ばしている。その他剤形には、点眼剤、外皮用剤、定量吸入キット、貼付剤などが含まれるが、定量吸入キット、貼付剤が使い易さを特徴にしてその実績を拡大させており、今後さらなる拡大が見込まれる。

(1) 経口剤 2004年見込み 3兆4,319億円(対2003年比 102%)

錠剤、カプセル、散・末・細・顆粒、シロップ、ドライシロップ・小児用細粒、内服液・液剤、口腔内崩壊錠、その他カプセル剤の市場は現在拡大している。サイズの大きさによる飲みこみにくさの問題などから、長期的には市場が縮小する可能性がある。粉末・散剤・細粒・顆粒は錠剤を飲み込みにくい嚥下力の低下している患者にも適している剤形である。しかし、現在発売されている製品の多くは歴史が古く薬価引き下げの度に市場縮小を余儀なくされている。薬剤の性質が安定的で剤形採用に制約の少ないドライシロップは、乳幼児・小児向け剤形としてシロップを上回る市場を形成している。内服液・液剤、口腔内崩壊錠は共に服用時に水が要らない利点を持ち、一般患者はもとより嚥下力の低下している患者に適した剤形とされている。また、口腔内崩壊錠は水分摂取を制限されている患者にも適しており、売上を伸ばしている。

(2) 注射剤 2004年見込み 1兆3,867億円(対2003年比 100%)

アンプル・バイアル(動注・静注・筋注・皮下注・局注)、カートリッジ(自己注射・皮下注射)、シリンジ(局注・静注・動注・皮下注・自己注射・皮下注)、ソフトバッグ、その他(キット製剤)

注射剤市場全体では、横ばい傾向にある。アンプル・バイアル製剤は市場を減少させている。一方でシリンジ製剤は静注・動注、局注、皮下注各投与経路ともに売上を伸ばしている。カートリッジ及びシリンジの自己注射の売上はほとんどがインスリン製剤、ヒト成長ホルモン剤となっているが、インスリン製剤の売上が牽引する形で拡大傾向にある。現在では自己注射市場は一つの注射剤市場として確立されたものとなっている。ソフトバッグ製剤は、発売当初その簡便性から一挙に導入された経緯があるが、ビンや樹脂のハードボトルからの切り換えが済んだ後の市場は減少傾向にある。

2) 領域別剤形の特徴・傾向

(1) 呼吸器官用剤・抗アレルギー剤

呼吸器官用剤・抗アレルギー剤の領域では喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)治療剤において定量吸入キット、経皮吸収テープ剤の市場が大きいことに加え、市場の伸びもガイドラインの整備に伴い、吸入ステロイド剤を軸に拡大している。注射剤は小さいながらも呼吸促進薬で全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善で初めての適応承認を取得した「エラスポール」(小野薬品工業)が実績を伸ばしており、バイアル剤形でウェイトが高まりつつある。抗アレルギー剤は花粉症治療剤として毎年、花粉の飛散量に市場を左右される傾向が見られるため、代表剤形である錠剤は増減を繰り返している。

(2) 抗がん剤

がん患者数の増加、新たな技術を利用した製品の発売に伴って、抗がん剤市場は堅調に伸びている、市場の中では、抗がん剤、制吐剤、CSFは注射剤中心の市場となっているため、抗がん剤市場全体でも注射剤中心の市場となっている。がん患者の「痛み」については従来のモルヒネ製剤以外にもフェンタニル製剤を使用した貼付剤が発売されており、薬剤成分、投与経路と、患者に多様な選択肢を与えている。

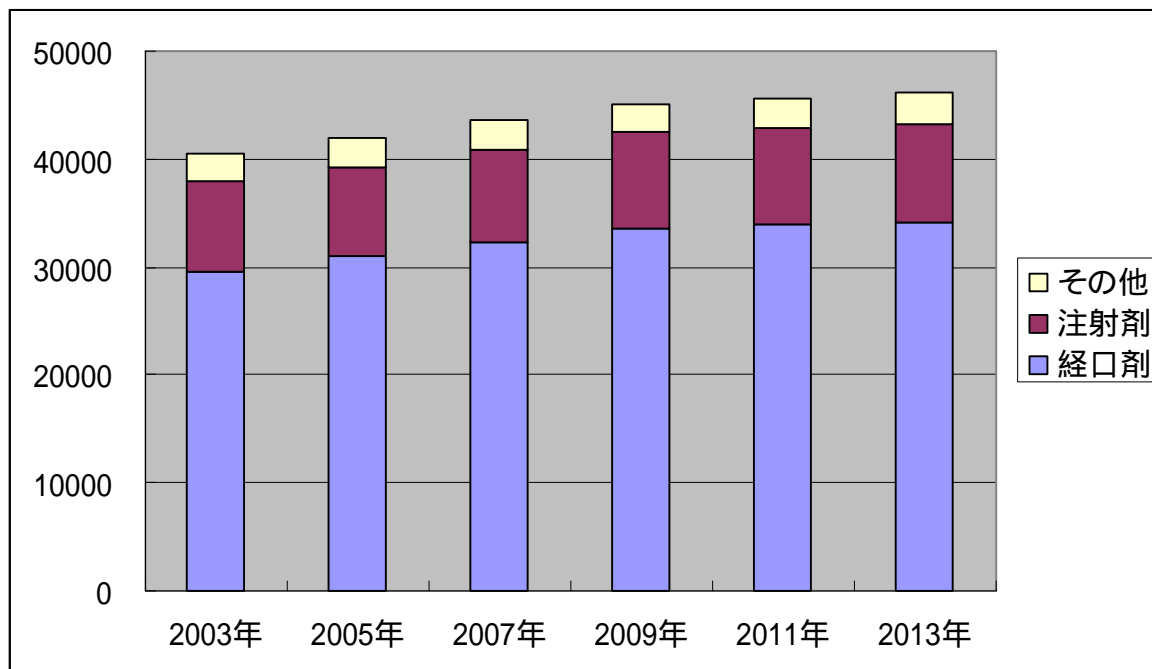
(3) 解熱消炎鎮痛剤・整形外科領域

整形外科領域においても、経口剤が売上を伸ばしておりその中でも錠剤市場が拡大する傾向にある。特に骨粗鬆症治療剤の「ボナロン」(帝人ファーマ)、「フォサマック」(万有製薬)および「ベネット」(武田薬品工業)、「アクトネル」(味の素 アベンティス ファーマ)といった話題性の高い錠剤が確実に売上を伸ばしている。注射剤、外用剤中心の整形外科領域においても、徐々に経口剤治療が広まっていることも錠剤市場の拡大要因となっている。解熱消炎鎮痛剤においては、胃腸障害の副作用や局所への効果から消炎鎮痛剤は幅広い製品ラインナップ・DDS

技術の製品が揃っている。その中で外用消炎鎮痛剤における塗布剤は日本における経皮吸収技術の基盤としてきた薬剤である。

参考資料

医療用医薬品全体市場規模予測（単位：億円）



富士経済予測

調査期間

2004年6月～8月

調査方法

富士経済専門調査員による直接面接取材

資料タイトル：「2004 医薬品剤形マーケティングマニュアル」

体 裁：A4判 215頁

価 格：180,000円（税込み189,000円）

CD-ROM無料添付

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 メディカル研究部

TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>